

いすみ市立国吉中学校 三年 平山璃心

おばあちゃんとお米

今年の七月、曾祖母は家族の皆に見守られながらこの世を去りました。曾祖母は母の実家の祖母です。腰が曲がり、動く動作も遅く、いまにも地面につきそうな歩き方をしていました。

手草も綺麗に取っていました。手先はとても器用で庭の小さな花も綺麗に取っていました。

元な曾祖母との一番の思い出がお祭りの時の握り寿司です。私が保育園生の時でした。

米粒を手に沢山つけ、しかり握ることのできる円型になってしまったのです。あきらめた私は曾祖母は自分が握る手を正しくしてしまったのです。

しかし、できたら寿司は体型にならぬことはなく、あきらめた私は曾祖母と一緒に一つずつ教えてくれました。

私が握る手を正しくしてしまったのです。あきらめた私は曾祖母は自分が握る手を正しくしてしまったのです。

は曾祖母の握るのを見ました。

円型になってしまったのです。あきらめた私は曾祖母は自分が握る手を正しくしてしまったのです。

と、言つて、璃心ちゃん上手にじかに握るのを見ていました。

ると言つて、璃心ちゃん上手にじかに握るのを見ていました。

の握り寿司を入れてくれたのも今日でもあります。

の握り寿司を形崩すことができました。型の整つていいない私

曾祖母は寿司桶の中のお米を一粒残さず握りながらお米は作るのか大変で、ちつたいなかったから少しぐらい残してても別にいいました。私は小さいながらも、沢山お米がありました。私は会祖母に話しました。曾祖母は優しく笑ひかけてくれただけでした。常にあの言葉が理解できなかたのです。

小学校五年生の時、学校の授業で勉強し、田植えから稻刈りまで一年かけないほどお米が収穫できることを知りました。私は、五年生にならぬかうやく初めて曾祖母の言葉の意味を理解できました。その時から食事の時に、お米一杯残さず、食べるようになりまです。曾祖母に「お米の作り方」を勉強してから会った時、いろいろな昔話をしながらお話をされると曾祖母は、

え
たし
くれ
ました。
一から、わかる時まで待つていいようと思ふ。
お米は、一年かりないといと出来ない。田植えをした
終わりじゃないんだよ。田んぼの周りの草刈りをしたり
私達が「じはん」として食べべたり、くり、話をしてくれ
稻刈りが終わればすぐ食べべられることはあります。お米も
りません。精米という作業が必要です。昔は、
玄米で食べていたと、曾祖母に聞きました。とても
時間がかけなければ、おいしいお米は収穫で
きなことを探たのと思ひ出した。
曾祖母は「じはん」として、曾祖母に聞きました。
けでなく、お米を炒めて作る「ひなあられ」
や精米で出た米ぬかを使ひにし、焼か清け
残った。精米で出た米ぬかを使ひにし、焼か清け
ました。
お米の加工には、「いろあさん

